

2019学年度

事業報告書

学校法人 京都国際学園
京都国際中学校
京都国際高等学校

〒605-0978

京都府京都市東山区今熊野本多山町1番地

TEL(075)525-3535
FAX(075)525-3563

<http://kyoto-kokusai.ed.jp>

kkg.info@kyoto-kokusai.ed.jp

2019学年度 事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

I. 法人の概要

1. 設立趣意書

21世紀は高度な技術情報化社会といわれる。瞬時にして国境を超え地球の裏側にまで伝達される情報は、閉鎖的な旧来の国家観を打破し、社会の変革と一層の他との共生を促す原動力となった。

このようなIT革命による高度情報化社会は、地球規模的に物質的繁栄をもたらすだけでなく、一方で、人間は生まれながら平等であるが故に、国や民族の違いを超えて他と共に生きなければならないことの大切さを教えてくれる。そして互いに人間として尊重しあい、協力しながら共に手を携えて、差別のない住み良い地域社会の構築が求められている。

人間の尊厳さを大切に考える人は、正しく他に対して思いやる、人権を重んじることにほかならない。そして同時に自己を知り、それを価値あるものとして誇りとする人は、自己と同じく他も価値ある存在として認め、それを理解し、尊重し、共に生きていくことのできる豊かな国際性を持つ人である。

今日まで、本学園は、在日韓国人子弟への民族教育を通して社会に貢献できる人材の育成を図ってきたが、このような社会にあっては、人権尊重と共生社会の実現を担う豊かな国際性を持った人材育成を教育的理想として発展的に再構成し、「人間の尊厳性」と「豊かな国際性」を教育の根本とした学校法人京都国際学園として設立するものである。

よって、本学園は、国籍の如何を問わず、次代を担う中学生・高校生を対象に帰国子女をはじめ、留学生、定住もしくは長期在留外国人子女をも受け入れる国際性豊かな学園づくりに取り組み、異文化の理解と尊重及び国際的視野と教養を身に付けることによって、「人間の尊厳」を学び取る場としながら、「国際化」を目指す日本の社会と国家、ひいては国際社会の共存共栄と人類文化発展のための貢献者たらしめようとするものである。

ここに本学園は上記の教育目的を達成するために、2004年4月開校し、京都国際中学校及び京都国際高等学校を設置するものである。

2. 沿革

1947. 5.13 京都朝鮮中学 開校
1951.12.19 財団法人東邦学院 設立、校名 東邦学院中学に変更
1958. 4. 4 学校法人京都韓国学園 設立、校名 京都韓国中学に変更
1963. 4.16 京都韓国中学 高等科 設置
1984. 8.12 本多山新校舎 竣工
1997. 5.11 開校50周年 記念式 挙行
2001. 3.31 第1寄宿舍 竣工
2003.12.12 京都府知事 京都国際中学校・京都国際高等学校 認可
2004. 4. 1 京都国際中学校・京都国際高等学校 開校
2005. 7.14 第2寄宿舍 竣工
2006. 9.28 第2運動場造成(テニスコート完成)
2015. 1.30 野球部雨天練習場 完成
2017. 5.13 開校70周年 記念式 挙行

3. 設置する学校及び入学定員数・学生生徒数

学 校 名	入学定員	在籍生徒 (2019年5月1日現在)
京 都 国 際 中 学 校	120	33
京 都 国 際 高 等 学 校	120	126
合 計	240	159

4. 教職員の概要(2019年5月1日現在)

学 校 名	教員			職員		
	本務	兼務	計	本務	兼務	計
京都国際中学校	8	3	11	2		2
京都国際高等学校	18	3	21	6		6
合 計	26	6	32	8	0	8

5. 役員の概要(2020年3月31日現在)

定 員: 理事 10人以上15人以内(現 11人)

監事 2人以上3人以内(現 3人)

6. 評議員の概要(2020年3月31日現在)

定 員: 21人以上31人以内(現 23人)

II. 事業の概要

1. 本校 教育目標

(1) 自分を大事にする人(自尊)

自らの根本を認識し、自己の存在に誇りを持つ人

(2) 絶え間なく努力する人(練磨)

自ら可能性を切り開くために、自己練磨に勤しむ人

(3) 共に生きる人(共生)

国際人として人権を尊び、異文化を正しく理解し、共に生きる人

2. 努力重点

韓国系の国際学校として「人間の尊厳性」と「豊かな国際性」を教育の根本とし、21世紀に活躍する国際人の育成を目指します。

また、韓国語・韓国地理歴史・在日韓国人史を学び、さらに民俗伝統行事などを通して韓国の文化や異文化を知ることによって豊かな国際感覚を養います。

今年度は特に中高共韓国への修学旅行とは別に、希望者を募り、各種韓国語学研修を実施した。

(1) 民族文化の暢達

① 韓国語学習の強化

- ・韓国語能力試験受験義務化
- ・学校生活用語の韓国語化
- ・中・高 韓国語学研修の実施
- ・韓国語暗唱・寸劇大会実施
- ・生徒の学習進度に合わせた習熟度別授業の展開
- ・中高共に韓国への修学旅行

② 伝統文化の定着

- ・名節、慶祝行事を通じて伝統精神の継承
- ・韓国伝統文化を中心として体験学習
- ・基礎的 民族文化の理解

③ 他文化共生教育

- ・地域貢献講座として韓国語4講座開設
- ・韓国の中学校を受け入れ、学生同士の相互交流を図った

(2) 進路保障の充実

① 分かりやすい授業の展開

- ・授業技術研究、教材開発
- ・学期末補習、進学合宿の実施

② 中高学力不振者への対応

- 定期考査及び各種校内試験の事前補習及び事後補習実施
(放課後及び学期末調整期間等)

③ 適性啓発

- ・各種 検定資格 取得(韓国語・英語・日本語・漢字・情報検定)
- ・各種外部模試受験

④ 中学校の進学指導

- ・進学補習、期末補習、補充授業等実施
今年度は 内部進学 8名 公立 2名 合格

⑤ 高等学校の進学指導

- ・放課後補習、補充授業等随時実施
- ・夏休み、冬休み等の進学補習
今年度は私大に 23名 韓国私大留学 2名
専修・各種学校 10名合格

(3) 人権尊重意識の高揚

- ・福祉実習や人権講演会を通じて人間尊重啓蒙活動
- ・教職員人権研修の拡大実施
- ・在日韓国人史
- ・全校人権学習